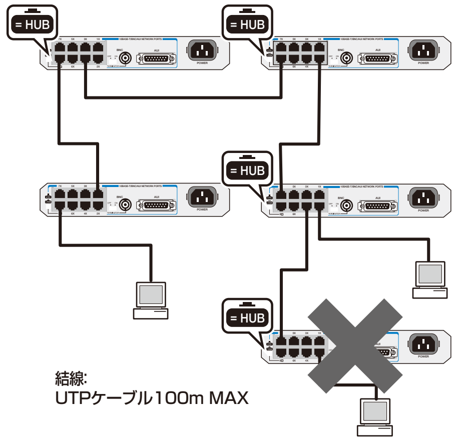



図 13　カスケード接続の段数を超えた例

## 8 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな？」と思われる前に、以下のことを確認してください。

### ● PWR LED は点灯していますか？

PWR LED が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

### ● 電源をオフにした後、すぐにオンにしていませんか？

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

### ● LINK/RECEIVE LED は点灯していますか？

LINK/RECEIVE LED は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

○ 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。

○ 正しい UTP ケーブルが断線なく正しく接続され、障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

○ UTP ケーブルに問題がないか確認してください。

ケーブルの不良は外観からは判断しにくいため（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試してみてください。

○ ケーブルの長さが制限を超えていないことを確認してください。

2 つのネットワーク機器の直接リンクを形成する UTP ケーブルは最長 100m と規定されています。

○ ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

特定のポートが故障している可能性もあります。

○ カスケード切替スイッチを確認してください。

本製品のポート 8 を使用して、リピーターやスイッチとカスケード接続する場合は、本製品のカスケード切替スイッチを「=HUB（スイッチが押し込まれた状態）」（MDI）に設定してください。

本製品のポート 8 同士をカスケード接続する場合は、一方を「=HUB」（MDI）に、もう一方を「X PC（スイッチが飛び出している状態）」（MDI-X）に設定してください。

○ リピーター（＝ハブ）の数が制限を超えていないかを確認してください。

カスケード接続ができるハブの台数は、最大 4 台までとされています。

本書の「カスケード接続」の項を参考にして、適切な接続を行ってください。

### ● TERMINATOR スイッチは正しく設定されていますか？

シンワイヤーケーブルの両端に BNC 用ターミネーターが正しく接続されているかどうか、また、両端のターミネーター以外に余計なターミネーターが接続されていないかどうかを確認してください。

TERMINATOR スイッチを「ON」に設定した場合は、本体内蔵のターミネーターが ON になりますので、ターミネーターを接続する必要はありません。

シンワイヤーケーブルの BNC コネクターを直接 BNC ポートへ接続します。

BNC ポートに、T 型バルブを用いて 2 本のシンワイヤーケーブルを接続する場合は、本体内蔵のターミネーターを OFF にする必要があります。

その場合は、TERMINATOR スイッチを「OFF」に設定し、それぞれ 50 Ωのターミネーターを接続した 2 本のシンワイヤーケーブルを T 型バルブに接続してください。

## 9 製品仕様

| | |
|---|---|
| **準拠規格** | |
| | IEEE 802.3　10BASE-T |
| **適合規格** | |
| 安全規格 | UL1950 CSA22.2 No.950 |
| EMI 規格 | VCCI クラス A |
| **電源部** | |
| 定格入力電圧 | AC100-240V |
| 入力電圧範囲 | AC 90-264V |
| 定格周波数 | 50/60Hz |
| 定格入力電流 | 0.3A |
| 最大入力電流（実測値） | 0.27A |
| 平均消費電力 | 12W（最大 15W） |
| 平均発熱量 | 42kJ/h（最大 54kJ/h） |
| **環境条件** | |
| 動作時温度 | 0 ～ 40℃ |
| 動作時湿度 | 80% 以下（結露なきこと） |
| 保管時温度 | -20 ～ 60℃ |
| 保管時湿度 | 95% 以下（結露なきこと） |
| 外形寸法（突起部含まず） | |
| | 210（W）x 107（D）x 38（H）mm |
| 質量 | |
| | 680g |

## 10 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

**アライドテレシス株式会社 修理受付窓口**
0120-860332
携帯電話／ PHS からは： 045-476-6218
月～金（祝・祭日を除く）　9:00 ～ 12:00
13:00 ～ 17:00

### ● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

## 11 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

**アライドテレシス株式会社 サポートセンター**
http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/
0120-860772
携帯電話／ PHS からは： 045-476-6203
月～金（祝・祭日を除く）　9:00 ～ 12:00
13:00 ～ 17:00

## 12 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

### ● 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてかまいません。

○ サポートの依頼日
○ お客様の会社名、ご担当者名
○ ご連絡先
○ ご購入先

### ● 製品について

○ シリアル番号とリビジョンをお知らせください。
シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている（製品に同梱されている）シリアル番号シールに記載されています。

S/N 007807G104000001 A1

図 14　シリアル番号シール（例）

S/N 以降のひと続きの文字列がシリアル番号、スペース以降のアルファベットで始まる文字列（上記例の「A1」部分）がリビジョンです。

### ● 設定や LED の点灯状態について

○ スイッチ類の設定状態をお知らせください。
○ LED の点灯状態をお知らせください。

### ● お問い合わせ内容について

○ どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。

### ● ネットワーク構成図について

○ ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
○ 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

## 13 ご注意

本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。

弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2012 アライドテレシスホールディングス株式会社

## 14 商標

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

## 15 電波障害自主規制について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

## 16 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

## 17 輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出しまたは「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

## 18 マニュアルバージョン

2012 年 1 月　Rev.A　　初版

613-000539 Rev.A 120112

Allied Telesis

8 ポート・HUB(BNC/AUI 付 )

# CentreCOM® MR820TRX ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM MR820TRX をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品は、10BASE-T インターフェースを 8 ポート装備したイーサネット・HUB です。バックボーンポートとして、AUI（10BASE5）と BNC（10BASE2）インターフェースを各 1 ポート備え、すべて同時に使用することができるため、多様なネットワーク環境に対応できます。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

### 本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用を意図した設計および製造はされておりません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわりなく、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

## 1 特長

○ コンパクトなボディサイズ
○ AC 電源を内蔵
○ カスケード接続専用のポートを 1 ポート装備
○ ネットワークや機器の状態が一目でわかる LED 表示機能

### オプション（別売）

○ 19 インチラックマウントキット AT-RKMT-J08 により 19 インチラックへの設置が可能
○ 壁設置用ブラケット AT-BRKT-J23 により壁面への設置が可能
○ 電源ケーブル抜け防止金具 AT-RTNR-01 に対応
○ L 字型電源ケーブル AT-PWRCBL-J01R により、奥行きをとらずに設置可能
○ マグネット Kit M またはマグネットシート M によりスチール製の壁面への設置が可能

### 製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社のホームページにてお知らせします。
http://www.allied-telesis.co.jp/

## 2 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認して、次のものが入っているかを確認してください。

☐ CentreCOM MR820TRX 本体（1 台）
☐ 電源ケーブル※　（1.8m、1 本）
☐ 製品保証書　（1 枚）
☐ シリアル番号シール　（2 枚）
☐ 製品仕様書　（英文）（1 枚）
☐ ユーザーマニュアル　（本書）

※ 同梱の電源ケーブルは AC100V 用です。AC200V でご使用の場合は、設置業者にご相談ください。
※ 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。

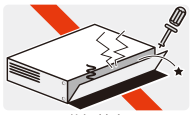
また、本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本装置が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管しておいてください。

# 安全のために

必ずお守りください

**警告**　下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

**分解や改造をしない**
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。


分解禁止

**雷のときはケーブル類・機器類にさわらない**
感電の原因となります。

雷のときはさわらない

**異物は入れない　水は禁物**
火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

異物厳禁

**通風口はふさがない**
内部に熱がこもり、火災の原因となります。

ふさがない

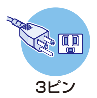
**湿気やほこりの多いところ油煙や湯気のあたる場所には置かない**
火災や感電の原因となります。

設置場所注意

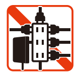
**表示以外の電圧では使用しない**
火災や感電の原因となります。
本製品は AC100-240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。

電圧注意

**正しい電源ケーブル・コンセントを使用する**
不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。接地端子付きの 3 ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの 3 ピン電源コンセントに接続してください。


3ピンコンセント

**コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない**
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。


たこ足禁止

**設置・移動のときは電源プラグを抜く**
感電の原因となります。

プラグを抜く

**ケーブル類を傷つけない**
特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。
ケーブル類やプラグの取扱上の注意
・加工しない、傷つけない。
・重いものを載せない。
・熱器具に近づけない、加熱しない。
・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

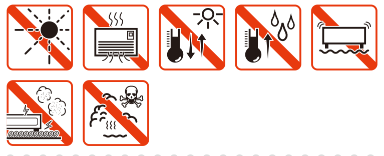
傷つけない

**適切な部品で正しく設置する**
取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。

正しく設置

## ご使用にあたってのお願い

**次のような場所での使用や保管はしないでください**
・直射日光のあたる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所
（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所



**静電気注意**
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

**取り扱いはていねいに**
落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

## お手入れについて

**清掃するときは電源を切った状態で**
誤動作の原因になります。

プラグを抜く

**機器は、乾いた柔らかい布で拭く**
汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤(中性)をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ぬらすな　中性洗剤使用　固く絞る

**お手入れには次のものは使わないでください**
石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください）

シンナー類不可

# 3　アイコンの説明

| アイコン | 意 味 | 説 明 |
|---|---|---|
| ヒント | ヒント | 知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。 |
| 注意 | 注意 | 物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。 |
| 警告 | 警告 | 使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。 |
| 参照 | 参照 | 関連する情報が書かれているところを示しています。 |

# 4　各部の名称と機能

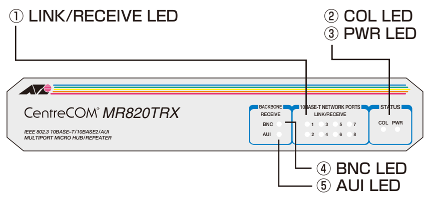



図１　外観図 （前面）

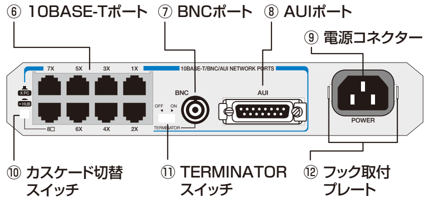



図２　外観図 （背面）

① LINK/RECEIVE LED（緑）
10BASE-T ポートが正常にリンクされ、相互に通信が可能な状態のときに点灯し、10BASE-T ポートでパケットが正しく受信されているときに点滅します。

② COL LED（橙）
コリジョンが発生しているときに点灯します。

③ PWR LED（緑）
電源が正しく供給されているときに点灯します。

④ BNC LED（緑）
BNC（10BASE2）ポートでパケットが正しく受信されているときに点滅します。

⑤ AUI LED（緑）
AUI（10BASE5）ポートでパケットが正しく受信されているときに点滅します。

⑥ 10BASE-T ポート
10BASE-T の UTP ケーブル（シールドなしツイストペアケーブル）を接続するためのコネクターです。
ポート８は、カスケード切替スイッチによって、カスケード接続用ポートとして使用することができます。

⑦ BNC ポート
10BASE2 のシンワイヤーケーブル（細径同軸ケーブル）を接続するためのコネクターです。

⑧ AUI ポート
10BASE5 のトランシーバーケーブル（AUI ケーブル）を接続するためのコネクターです。

⑨ 電源コネクター
電源ケーブルを接続し、電源を入れるためのコネクターです。

⑩ カスケード切替スイッチ
ポート８をカスケード接続用ポートとして使用するか、通常の 10BASE-T ポートとして使用するかを設定するためのスイッチです。

=HUB（スイッチが押し込まれた状態）
カスケード接続をするときのカスケードポート（MDI）として使用します。

X PC（スイッチが飛び出している状態）
通常の 10BASE-T ポート（MDI-X）として使用します。

⑪ TERMINATOR スイッチ
BNC コネクターに内蔵された 50 Ωのターミネーター（終端器）の ON/OFF を設定します。

ON（右）
本製品をシンワイヤーケーブルの端に設置する場合は「ON」に設定し、シンワイヤーケーブルのBNCコネクター（オス）を直接接続します。

OFF（左）
本製品をシンワイヤーケーブルの途中に設置する場合は「OFF」に設定し、T 型バルブを用いて２本のシンワイヤーケーブルを接続します。
このとき、２本のシンワイヤーケーブルの両端は、それぞれ 50 Ωのターミネーターで終端させてから、T 型バルブに接続してください。

⑫ フック取付プレート
オプション（別売）の電源ケーブル抜け防止フックを取り付けるプレートです。

# 5　設置

本製品の設置を始める前に、必ず**「安全のために」**をよくお読みください。

## 設置方法

本製品は、次の方法による設置ができます。

○　平らなところへの水平方向の設置

オプション（別売）を利用することにより、次の方法による設置ができます。

○　ラックマウントキットによる 19 インチラックへの水平方向の設置

○　壁設置ブラケットによる壁面への設置

○　マグネットキットまたはマグネットシートによるスチール製壁面への設置

警告　弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災、故障の原因となります。

注意　製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

警告　水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。

## 設置準備

### ●接続するケーブルを用意する

MR820TRX 本体をネットワークに接続するケーブルをご用意ください。

ヒント　本製品には接続ケーブルが同梱されていません。以下の表をご参考いただき、使用環境に合わせたものを、お客様にてご用意ください。

| | ケーブルの種類 | ケーブルの最長距離 |
|---|---|---|
| 10BASE-T | UTP ケーブル（カテゴリー３以上） | 100m |
| 10BASE2 | シンワイヤーケーブル（注）（5mm 径） | 185m |
| 10BASE5（幹線） | イエローケーブル（12mm 径） | 500m |
| 10BASE5（支線） | トランシーバー（AUI）ケーブル | 50m |

（注）RG-58A/U、または RG-58C/U 同軸ケーブル

### ● 設置するときの注意

設置にあたっては、次の点にご注意ください。

○　電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。

○　テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

○　傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

○　底部を上にして設置しないでください。

○　充分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。

○　本体の上にものを置かないでください。

○　直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

○　本製品は屋外ではご使用になれません。

○　コネクターの端子にはさわらないでください。（静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。）

## 設置

### ● 平らなところに設置する

本製品は、ゴム足を取り付けた状態で出荷されますので、そのままデスクの上などの平らなところに設置して使用できます。

## オプションを利用した設置方法

### ● 壁設置ブラケットによる設置

本製品の壁面への設置は、別売の壁設置ブラケット（AT-BRKT-J23）を使用し、以下の点に注意して行ってください。

・AT-BRKT-J23 の使用方法は、AT-BRKT-J23 の取扱説明書をご参照ください。

・本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

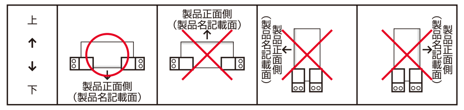



図３　壁設置ブラケットを使用する場合の設置方向

ヒント
・壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。
・壁設置ブラケットを使用する際は、本製品のゴム足を外した状態で設置してください。

警告
・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
・壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不充分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

### ● マグネットによる設置

本製品のスチール製壁面への設置は、別売のマグネット Kit M またはマグネットシート M を使用し、以下の点に注意して行ってください。

・マグネット Kit M/ マグネットシート M の使用方法は、マグネット Kit M/ マグネットシート M の取扱説明書をご参照ください。

・本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

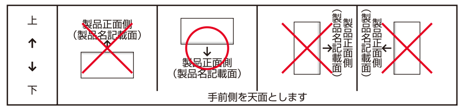



図４　マグネットを使用する場合の設置方向

注意　設置面の状態によっては、マグネットの充分な強度を得られない場合があります。

警告
・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
・マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。
・マグネットの取り付けは、マグネットキット / マグネットシートの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

### ● 19 インチラックへの水平方向の設置

本製品の 19 インチラックへの水平方向の設置は、別売の 19 インチラックマウントキット（AT-RKMT-J08）を使用してください。

警告
・本製品をオプションの 19 インチラックマウントキットを使用して 19 インチラックに取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不充分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。
・ラックマウントキットの本製品への取り付けは、ラックマウントキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

# 6　接続

## ネットワーク機器の接続

### ● UTP ケーブルの接続

**1.　本製品に UTP ケーブルを接続する**

本体背面の 10BASE-T ポート（RJ-45）に UTP ケーブルを接続します。

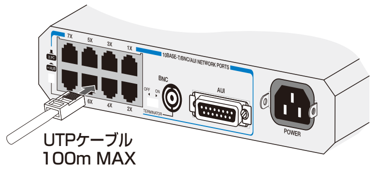



図５　UTP ケーブルの接続

**2.　UTP ケーブルのもう一方を端末と接続する**

UTP ケーブルのもう一方を端末に接続してください。

ヒント　UTP ケーブルのコネクター部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

### ● シンワイヤーケーブルの接続（10BASE2）

10BASE2 をバックボーンとする場合は、本体背面の BNC ポートにシンワイヤーケーブルを接続します。

本製品をシンワイヤーケーブルの端に設置する場合は、図６のとおりに TERMINATOR スイッチを「ON」に設定し、シンワイヤーケーブルの BNC コネクター（オス）を直接接続します。

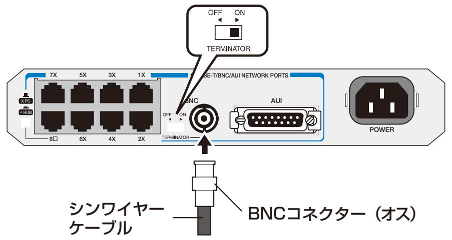



図６　シンワイヤーケーブルの接続
（本製品がケーブルの端にある場合）

本製品をシンワイヤーケーブルの途中に設置する場合は、図７のとおりに TERMINATOR スイッチを「OFF」に設定し、T 型バルブを用いて２本のシンワイヤーケーブルを接続します。

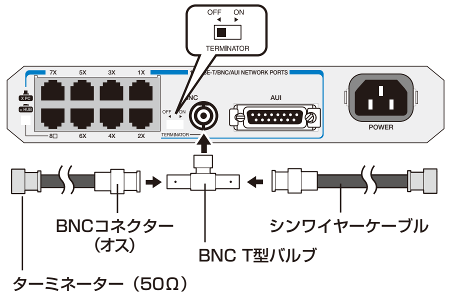



図７　シンワイヤーケーブルの接続
（本製品がケーブルの途中にある場合）

このとき、２本のシンワイヤーケーブルの両端はそれぞれ 50 Ωの BNC 用ターミネーターで終端させてから、T 型バルブに接続してください。

### ● トランシーバーケーブルの接続（10BASE5）

10BASE5 をバックボーンとする場合は、本体背面の AUI ポートにトランシーバーケーブル（AUI ケーブル）を用いてトランシーバーを接続します。

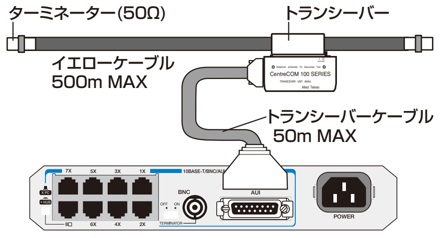



図８　トランシーバーケーブルの接続

## 電源の接続（本製品の起動）

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

本製品では、次の電源ケーブルを使用できます。

○　同梱の電源ケーブル（AC100V 用）

○　オプション（別売）の L 字型コネクター電源ケーブル
・背面スペースが限られた場所でも、奥行きをとらずに設置できます。
・AT-PWRCBL-J01R

警告　同梱の電源ケーブルは AC100V 用です。AC200V で使用する場合は、設置業者にご相談ください。不適切な電源ケーブルを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

注意　本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で電源が入りますので、ご注意ください。

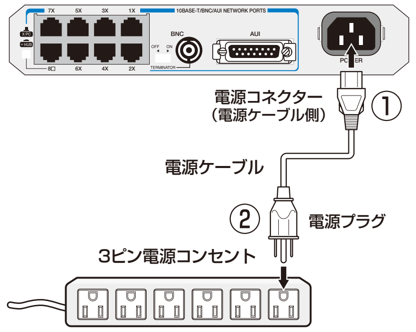



図９　電源ケーブルの接続

**1.　本体側の電源コネクターを接続する**

図９の①をご覧ください。

ヒント　電源ケーブル抜け防止対策として、オプション（別売）の電源ケーブル抜け防止金具（AT-RTNR-01）をご使用いただけます。

注意　オプション（別売）の L 字型コネクター電源ケーブルと電源ケーブル抜け防止金具は、同時に使用できません。（L 字型コネクター電源ケーブルは、同梱の電源ケーブルに比べて抜けにくいケーブルです。）

**2.　電源プラグを電源コンセントに接続する**

図９の②をご覧ください。
このとき、本体前面の PWR LED が点灯することを確認してください。
UTP ケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートの LINK/RECEIVE LED が点灯します。

## 本製品の停止

本製品を停止するには、電源コンセント側のプラグを抜いてください。

警告　電源を抜くときには、本体側の接続を先に抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

ヒント　電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

# 7　構成

各メディアをネットワークバックボーンとして接続する場合の構成例を図で示します。

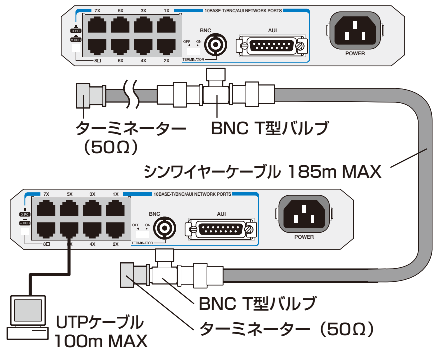



図 10　10BASE2 接続の構成例

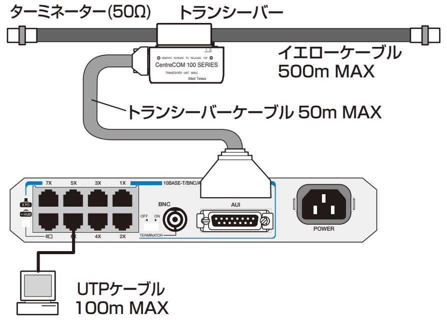



図 11　10BASE5 接続の構成例

## カスケード接続

ポート８をカスケード接続用ポートとして使用すると、クロスケーブルを使用することなく簡単にカスケード接続をすることができます。

### ● 接続手順

1.　本体背面のポート８に UTP ケーブル（ストレートタイプ）を接続します。

2.　カスケード切替スイッチを「=HUB（スイッチが押し込まれた状態）」（MDI）に設定します。

3.　UTP ケーブル（ストレートタイプ）のもう一方の端を、接続先の機器の通常の 10BASE-T ポートに接続します。
接続先が同一製品のポート８の場合は、接続先のカスケード切替スイッチは「X PC（スイッチが飛び出している状態）」（MDI-X）に設定します。

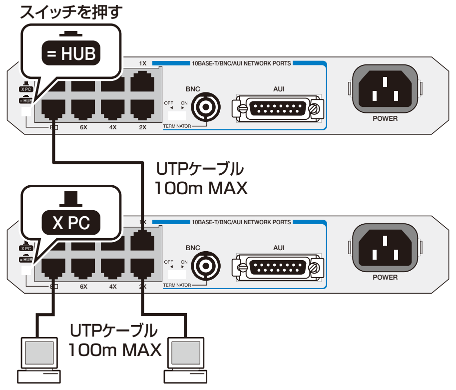



図 12　カスケード接続例

リピーター（＝ハブ）のカスケード接続は、最大４台までとされています（これは通信が正常に行われるためのルールで、IEEE 802.3 によって規定されています）。図 13 のように５台以上のハブをカスケード接続しないでください。